

2

JICA 教育訓練委員会

2.1 委員会の設置経緯

1974年に名古屋国際研修センター（NITC、現 JICA 中部）に故益本 功（名古屋大学教授）や溶接関連企業の協力で、開発途上国からの溶接技術者を対象とする「溶接技術研修コース」が開設された。当初は日本溶接協会の溶接技術者資格認定試験に合格するようにカリキュラムが計画されたが、1986年頃より欧州溶接連盟（EFW）の教育カリキュラムを基本とする国際的な教育カリキュラムを採用し、溶接技術者の教育訓練を名古屋大

学、三重大学、大阪大学など多くの企業の関係者、溶接専門家の協力を得て実施した。

1989年には当協会に「JICA 教育訓練委員会」を設立し、JICA（国際協力事業団、後に国際協力機構）が政府開発援助（ODA）として実施する集団研修「国際溶接技術者」研修コースを受託して、研修コースの立案、講師派遣などを行ってきた。

2.2 委員会の活動経過

2.2.1 「国際溶接技術者」研修コース

JICA の研修員受入事業は、開発途上国で将来中核的な役割を担う行政官、技術者、研究者などを研修員として招き、その国で必要とされる知識・技術を伝えることを狙いとしている。

国際溶接技術者研修コースでは、研修員は約6ヵ月間、名古屋にある JICA 中部に滞在し、溶接技術の基礎理論の講義と実技の教育訓練を受ける。さらに日本国内の約20ヵ所の製造事業所、研究所を訪問し、最新の溶接技術が適用されている製造現場を直接見学することで、溶接の基礎知識と応用力を身につけ、帰国後は溶接施工の管理や自国の溶接技術者を育成する指導者となることが期待される。

また、このコースでは研修の目標達成度を確認する意味で、溶接技術者の資格を取得できるコースとなっている。当初は WES 8103 に基づく当協会の溶接管理技術者の資格を取得させていたが、2000年より本研修コースが IIW の資格を取得するための正規教育コース（Standard Route）として IIW 資格日本認証機構（J-ANB）より承認さ

れ、当委員会は IIW が規定したガイドラインに基づく教育訓練機関（Approved Training Body, ATB）に位置づけられた。

研修員は所定時間の講義を受講後、J-ANB が実施する評価試験を受験し、合格者は研修期間内に IWE（International Welding Engineer）、IWT（International Welding Technologist）または IWS（International Welding Specialist）のいずれかのディプロマ（履修証明）を取得することができる。

さらに2006年からは溶接検査技術者の資格である IWI-S（International Welding Inspector-Standard Level）の正規コースが追加された。

この結果、本研修コースの所要日数は講義約77日間、実技・実習約37日間、事業所見学約12日間で、900時間以上の教育訓練を行う充実したコースとなり、IWE、IWT または IWS の資格に加えて、溶接検査技術者資格の2種類の国際資格（ディプロマ）が一つの研修コースで取得できる。

JICA には当時600を超える研修コースがあったが、本研修コースは世界的に通用する国際資格が取得できるコースとして高く評価された。

2.2.2 委員会の役割

JICA国際溶接技術者研修コースは、通常、該当年度の4月からスタートする。JICAの研修コースはODAで行われることから、研修員の募集などは日本の外務省を通じて行われ、そのための準備は前年度の8月頃からは行っており、JICA教育訓練委員会もこれに深く関わることになる。

(1) GI (General Information) の作成

JICAは外務省、現地日本大使館を通じて現地政府関係機関に、次年度に行う数百の研修コースの提案を行う。この提案に興味を持った国に対して送付する詳細な募集案内 (GI) 案を作成。

(2) 選定会議

IIWの資格取得には厳密な受験条件が規定されていることから、研修参加希望者全員について、研修員選定会議を行う。主な選定基準は以下の通り。

- ・工科系大学卒業、または同等以上の学歴。
- ・当該分野での職務経験が3年以上。
- ・26歳～40歳程度の若手・中堅技術者。
- ・研修を受けるのに十分な英語力。

(3) 研修日程、カリキュラム作成

研修コースの全期間 (約6ヵ月) にわたる講師および実習・見学先の選任と日程調整、講義謝金・実習費用支払い、テキスト等の購入・作成・印刷。

(4) 開講

研修員出身国の溶接状況を紹介する「国別発表会」及び事前提出レポート・個別インタビューを通じ、研修員の溶接技術知識レベルの把握。

(5) 中間評価会議

研修員の研修状況・感想・意見を把握し、研修後半にフィードバック。

(6) 最終評価会議と閉講

コースの最終評価 (研修員へのアンケート調査) と、閉講式におけるIIWディプロマの授与。

2.3 この10年の経過

2.3.1 2009～2012年の研修コース

(1) 2009年度研修コース

バングラデシュ、エジプト、インドネシア、マレーシア、メキシコ、パキスタン、フィリピン、サモア、スリランカ、シリアおよびトルコの11ヵ国11名の研修員が参加した。

予算執行の都合により、当年度の研修コースは下期に行われ、例年に比較して研修期間が短いことからIWIS正規コースの実施は見送られた。

評価試験結果および受験資格により、研修員11名全員に対し、それぞれの資格 (IWE 6名、IWT 3名、IWS 2名) が授与された。

(2) 2010年度研修コース

メキシコ、インドネシア、ミャンマー及びエチオピアの4ヵ国6名の研修員が参加した。

評価試験の結果、研修員6名全員に対し、それぞれの資格 (IWE 4名、IWT 2名、IWIS 6名) が授与された。

(3) 2011年度研修コース

エジプト、エチオピア、インドネシア、メキシコおよびミャンマーの5ヵ国6名の研修員が参加したが、エジプトからの研修員が自己都合により期間途中で帰国せざるを得なかった。

また、東日本大震災の影響で、企業の見学日程が直前まで決まらない例や、訪問先の見直しを行

わなければならないことがあった。

評価試験結果および受験資格により、研修員5名全員に対し、それぞれの資格 (IWE 4名、IWS 1名、IWIS 4名) が授与された。

(4) 2012年度研修コース

エジプト、エチオピア、インドネシア、メキシコおよびミャンマーの5ヵ国6名の研修員が参加した。

評価試験の結果、研修員6名全員に対し、IWEおよびIWISの資格が授与された。研修員全員がIIW国際溶接技術者資格の最高位であるIWEを授与されたことは近年の本研修コースでも例がなく、研修員の素質および研修期間中での本人たちの努力が実を結んだものである。また、研修期間中の研修員同士のチームワークの良さも研修効果を上げた要因である。

2.3.2 研修コースの終了

JICA教育訓練委員会は集団研修「国際溶接技術者」研修コースについて、計画の立案と実施をJICAから受託するが、ODAであることから研修員の募集作業そのものは日本政府と相手国政府間で行われる。

2009年ごろまでは、例年10名を超える研修員が集まったが、2010年には4ヵ国6名、2011年5ヵ国6名、2012年5ヵ国6名と、本研修コースに参

